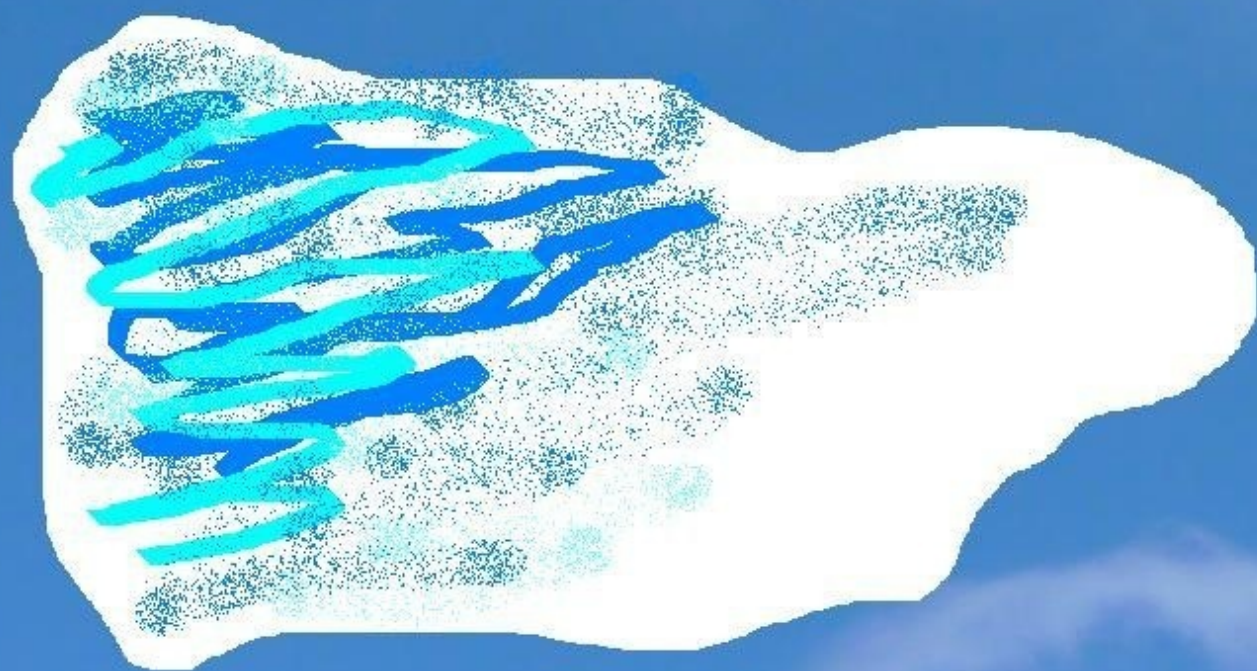


絵かきこぞう



絵夢ロイ

絵かきこぞう

空の上には絵かきこぞうが住んでいます。
絵かきこぞうは絵を描くのが大好きです。
朝、絵かきこぞうは東の空をオレンジ色に塗ります。
太陽が昇ってくる前の空の色を作るのです。
昼間は空いっぱい青い絵の具で絵をかきます。夕方になると赤や黄色を混ぜて、
きれいな夕焼けを描きます。

絵かきこぞうは一人で生活をしています。
話をする相手がいないのです。
空の上からは、みんなが楽しそうに遊んでいるのが見えます。
ある日、絵かきこぞうはどうしてもみんなと遊んでみたくなりました。
絵かきこぞうは空を灰色に塗りました。
そうしておけば一日中曇りなので、途中で描き直さなくても大丈夫です。

絵かきこぞうはみんなが遊んでいる公園にやってきました。

「ぼくも、なかまにいられて！」
という子供たちは、
「うん。いいよ。」
といてすぐに友達になりました。

鬼ごっこやかくれんぼ遊びを初めてやってみました。
楽しくて楽しくてあっという間に時間が過ぎてしまいました。
夕方になりました。

一番仲が良くなったけんちゃんが言います。
「また遊ぼうよ。きみのうちはどこ？」
「ぼく、空の上に住んでいるんだ。」
「それほんとう？わー、いいなあ。ぼくも空の上に住んでみたいなあ。」
とけんちゃんが言いました。
絵かきこぞうは答えます。
「それなら今度遊びにおいでよ。ぼく一人で暮らしているからつまらないんだ。」
明日のお昼に絵かきこぞうが迎えにくることになりました。

けんちゃんは空の家に行けると思うとわくわくしています。
次の日です。約束通りに絵かきこぞうはけんちゃんを迎えにきました。
絵かきこぞうがけんちゃんの手をにぎって、ピョンと飛び上がりました。
するとどうでしょう。
けんちゃんと絵かきこぞうは、足が地面から離れて空高く昇り始めました。

空から見る街は初めてです。
雲を突き抜けてぐんぐん昇っていきました。
ようやく絵かきこぞうの家に着きました。

「けんちゃん、いらっしやいませ。」
「すごいなあ、こんなところに住んでいるなんて。」
けんちゃんは何もかも珍しくて仕方ありません。
絵かきこぞうは自分はいつも空に絵を描いているんだと話しました。
季節によって描き方が違うのだと言います。
冬は雪雲を、夏は青空と太陽を描くのだそうです。

けんちゃんは感心してしまいました。
絵かきこぞうはけんちゃんに透明なジュースを出してあげました。
とてもおいしいのです。
けんちゃんがそれをテーブルに置こうとした時、
滑ってコップを倒してしまいました。
残っていたジュースが空へこぼれました。

地上では大変です。夕立となってしまいました。
「あー。どうしよう。ごめんなさい。」
と、けんちゃんが謝ると絵かきこぞうはにこにこしながら言いました。
「では、これをやってごらん。」
といって、けんちゃんに7色の絵の具を渡しました。

けんちゃんは言われたとおり筆で7色の絵の具を使って絵を描きました。
すると、地上では夕立が納まり、
その後には見たこともないほど大きな虹が現れました。

「けんちゃん。君、絵の才能あるよ。ほら、みんなが大きな虹に驚いているよ。」
けんちゃんはいつも絵を描くと自分の名前を入れます。
絵の隅に「けん」と書きました。
すると虹のそばに雲が湧き出て「けん」という形になりました。

楽しい時間はあっという間に過ぎて夕方になりました。
お別れの時間です。二人は一緒に特製の夕焼けを描きました。

気が付くとけんちゃんは自分の家にいます。
西の空を見ました。さっき自分が描いた通りのみごとな夕焼けです。
けんちゃんは気がつきました。
西の空の隅っこに「けん。ありがとう」という形の雲がありました。
けんちゃんは空に向かって大きな声で言いました。
「絵かきこぞう。ありがとう。楽しかったよ。また遊ぼうよ！」

けんちゃんとの楽しかったときを思い出して、
絵かきこぞうは涙を一滴落としました。
それはみごとな流れ星となり、はるか下に見える地面に吸い込まれるように
落ちてゆきました。

絵かきこぞうは、今日はどんな絵を描いてくれるのでしょうか。
毎日絵かきこぞうを応援しましょう。
そうすればあなたもきっと絵かきこぞうに会える日が来ますとも。

おわり